

緊急人道支援学会 企画セッション

人道資金不足に直面するケニアでの国際 NGO の役割—難民統合政策下で

■ 要旨

ケニアは、2025 年 5 月時点で約 85 万人の難民・庇護申請者を受け入れており、うち 43 万人はダダーブ地域、30 万人がカクマ・カロベエイ地域、11 万人が都市部に暮らしている。2025 年 3 月に策定されたケニア政府の難民統合管理計画「Shirika Plan」によって、これまでキャンプ居住の義務化や移動・就労の制限を前提としていた難民政策から、難民を地域社会の一員として統合し、ケニア国民と同等のサービスへのアクセスを可能にするとともに、経済・開発活動への参加を通じて地域開発の主体として位置づける方向へと転換が図られている。こうした中、2025 年 2 月からの米国の対外援助停止の影響は直接的な負の影響を、難民統合移行期にあるケニアの難民キャンプそして居住地区の人道状況にもたらしている。本セッションでは、難民統合移行期にありながら人道資金ギャップにあえぐケニアの難民居住地域の現状を把握し、今後の移行実施の具体的な在り方を模索する。

発表者として、実際に難民としてケニア難民キャンプで教育を受け、ジャーナリズムを専門とする南スーダン出身研究者、そして 2012 年から両ダダーブ・カクマ難民キャンプそして居住地区で支援を展開してきた国際 NGO ピースウィンズ・ジャパン(ピースウィンズ)、そして 2017 年からカクマ難民キャンプおよびカロベエイ難民居住地区で教育支援に携わる国際 NGO 難民を助ける会(AAR)が、危機下にある忘れられた人道危機支援地の現状と課題について報告し、難民統合移行段階における日本のアクターの役割について議論する。

■ 発表者の発表内容・略歴、およびファシリテーターの略歴

発表者①: オケロ・ピーター (Peter Okello)

所属: 広島大学大学院後期博士課程

発表内容: オケロ氏は南スーダンの人道状況とケニアにおける南スーダン難民の状況について、自身が難民として過ごした難民キャンプでの経験とデータを用いて提示する。そこから難民目線から求められる難民統合政策の在り方と国際支援の役割を言及する。

経歴: 広島大学大学院国際協力研究科博士課程在籍。南スーダン出身のジャーナリストとして 16 年以上の経験を持ち、1992 年から 2008 年までカクマ難民キャンプで生活し、教育を受けた。フィルムエイド・インターナショナルを通じて難民ジャーナリストの育成も行い、2010 年から 2011 年までダダーブ難民キャンプ内のイフォ中等学校で教鞭をとっている。都市難民と連携し、彼らの状況を描いた「都市部難民」映画を制作したほか、南スーダンでジャーナリスト及び国連平和維持活動広報スタッフとしても活動。研究テーマは和平合意の実施、強制移住、紛争解決、平和構築。

参考 URL: <https://www.linkedin.com/in/peter-okello-864a38185>

発表者②: 千葉暁子

所属: ピースウィンズ・ジャパン ケニア事業 現地事業責任者

発表内容: ピースウィンズは、ケニアのダダーブおよびカクマ両難民キャンプならびに居住地区において、給水・衛生、住居、人道ロジスティクス等の基礎サービス提供の中核的役割を担ってきた。国際支援資金の縮小という制約的環境においても、難民の保護を保障する給水等サービスの継続とサービス提供機能の政府・民間事業主体への移転という制度的変容を同時並行で進める必要に迫られている。本発表では、ピースウィンズの実践事例を通して、同団体のセクター横断的な連携を含む戦略的対応と成果、今後の展開を分析し、統合的・持続的な難民管理の実装における NGO の役割と課題に関して論じる。

経歴: 東京都立大学大学院修士課程修了。JICA ボランティアでエジプト・ヨルダンに派遣、ケニアにおいて JICA フィールド調整員、専門家、コンサルタント従事を経て、2018 年にピースウィンズに入職、2020 年より現職。

参考 URL: <https://global.peace-winds.org/journal/51692>

発表者③: 今野聖巳

所属: 難民を助ける会 (AAR Japan) ケニア事業担当

発表内容: AAR Japan は 2014 年よりカクマ難民キャンプおよびカロベイエ難民居住区、ならびに受け入れ地域において教育支援事業・子どもの保護事業を実施してきた。本発表では、過去 3 年間にわたり実施してきた初等教育支援事業の実践と成果を報告する。その上で、昨今深刻化している人道資金ギャップが教育支援および子どもの保護分野に与える影響を明らかにし、現場における対応策や工夫について検討することで今後の人道支援のあり方に関する示唆を提示する。

経歴: 神戸大学大学院国際協力研究科修了。2023 年に AAR Japan に入職。モルドバに駐在しウクライナ難民の保護事業に従事した後 2024 年よりケニアに駐在し、カクマ難民キャンプおよびカロベイエ難民居住区にて教育支援事業に従事。現在は東京事務局海外支援事業部にて勤務。

参考 URL: <https://aarjapan.gr.jp/report/19626/>

ファシリテーター: 大門碧

所属: ピースウィンズ・ジャパン ケニアおよびウガンダ事業担当 / 京都大学アフリカ地域研究資料センター 特任助教

経歴: 2006 年よりウガンダでフィールドワークを開始し、若者・都市・社会関係をテーマにした研究に従事。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。2016 年から北海道大学の教職員としてザンビア、ケニアに駐在し、日本への留学生誘致を目的とした文科省事業 (サブサハラ・アフリカ対象) に携わる。2024 年にピースウィンズに入職。

参考 URL: ピースウィンズ ケニア事業 <https://global.peace-winds.org/activity/area/kenya>

■ セッションの流れ

1. イントロダクション「ケニアにおける難民統合政策と人道資金ギャップの現状」(大門碧)
2. 発表①「ケニアにおける南スーダンの難民状況の現在と人道ニーズ」(オケロ・ピーター)
3. 発表②「ケニア難民キャンプにおける基礎サービス提供の制度的転換と NGO の貢献: 統合政策と資金難の狭間で」(千葉暁子)
4. 発表③「人道資金ギャップ下における教育支援および子どもの保護の課題と対応策— ケニア・カクマ難民キャンプおよび居住区の現場報告」(今野聖巳)
5. ディスカッションおよび質疑応答

■ その他

発表者の千葉暁子氏はケニアよりオンラインで登壇予定